

充実したケニアライフ

梶山ちさと

16日間のケニアスタディーツアーはあっという間に終わってしまった。道直し、ホームステイ、小学校訪問、サファリ、孤児院、毎日が本当に充実していて、日本では経験できないようなことがたくさんありました。出発前は治安や病気などの不安があったけど、ケニアに行ってよかったと心底思います。「もっとケニアにいたかったなー。またケニアで出会った皆に会いたいなー。」と写真を見るたびにつぶやいています。無事に、何事もなく帰ってこられたのは、お世話をしていただいたケニア事務所の喜田さん、松本さん、マトマイニ・チルドレンズホームの菊本さん、スタディーツアーに付き添ってくれた酒井さんと一緒に参加した快くん（長野くん）とクリステル（瀧川さん）、ホームステイのパパとママ、など、たくさんの人のおかげです。本当にありがとうございました。

毎日が驚きと発見の連続だったのですが、その16日間の中で最も印象に残ったのは4日間のホームステイでした。ホームステイ初日と2日目の日中は道直しをし、その後は家族と過ごしました。3日目はホストファミリーと丸一日過ごし、4日目のお昼にお別れをしました。私のホストファミリーは6人家族でパパとママと子どもたちが4人。隣の家にはパパの従兄弟が住んでいて、よく家に来るので、毎日賑やかだった。子どもたちは服や靴をぼろぼろになるまで着ていて、出掛けるとき以外はほぼ裸足だったことにまず驚きました。シャワーやお風呂はないので、井戸から汲んだ水を浴びる。トイレはポットン。ガスはなく薪や紙を燃やして料理。洗濯はもちろん手洗い。夜は9時に就寝、朝は6時前には起床。夜はかなり冷え込むので、ホームステイ中、私は長女（10歳）と一緒に毎晩くっついて寝ていました。一番衝撃的だったのが、ベッドのすぐ横に何匹かの鶏がたまごを産むために寝ていたことだ。しかも、朝の4、5時に卵を産み終わると活発に部屋の中でコッココッコと鳴きながら動き回る。(笑)まさか鶏と同じ部屋で寝るとは思ってもいなかった。(笑)思わずママに「鶏がいるけど、大丈夫？攻撃されない？」と聞いてしまった。(笑)ママは「Don't worry.」と言ってくれたけど、内心はかなり心配だった。でも、鶏のおかげで目覚ましをかけなくても、起きられたことには感謝だ。他にも心配なことがあった。それはご飯だ。でもその心配とは裏腹にママの作った料理は本当においしかった。しかも、私のために高級食材のチキン、牛乳、スイートポテト、チャイなどを買ってくれた。一番おいしかったのは、チキンとトマトを煮込んだ料理だった。スクマウィキという苦い葉っぱをトマトと少量の牛乳で煮込んでくれて食べやすくしてくれたのはすごく嬉しかった。ママの料理が忘れられないです。もう一つ忘れられないのが子どもたち。初めは人見知りで、全く話してくれなかったけど、徐々に打ち解けてくれた。折り紙で鶴、やっこさん、風船、飛行機、蛙などたくさん作ったら、くしゃくしゃになるまでずっと遊んでいた。それがすごく嬉しかった。でも仲良くなった頃には、お別れだったのが寂しかった。他にも、忘れ

られないことやおもしろかったことがまだまだたくさんあったけど、多すぎて書ききれません。短かったけど、それぐらいケニアでの生活は濃かった。今まで経験したことのない生活をして、日本での生活がどんなに豊かで、どんなに恵まれているかを身に染みて感じました。このような環境の中で生活できて本当によかったです。またホストファミリーに会いに行きたいです。

ホームステイと同時に2日間炎天下の中道直しをしました。まず、ケニアの女性たちのパワーには圧倒されました。軽々と大量に水の入ったタンクを頭の上に載せて運ぶ姿に驚きました。私もそれを載せようと挑戦したものの、支えきれず断念。一回り小さいタンクは何とか運べました。道直しの最中、彼女たちは他愛もない話をたくさんしてくれて、暑くて大変だったけど楽しい作業だった。彼女たちの逞しさと陽気さが大好きになりました。道直しを終え、ホームステイ先の家に帰ったとき、ケニアに来て初めて凸凹の道を歩きました。深い溝があったりするので、凸凹に注意し、道を選びながら歩かないといけませんでした。小学校がすぐ近くにあり、ここも歩きやすい安全な道になればいいのにと思いました。日本に住んでいると道の大切さ、有り難さを感じたことは一度もなかったけど、ケニアにきて道の大切を生まれて初めて実感しました。

ホームステイが終わった後、小学校を訪問しました。まず、生徒の多さに衝撃を受けました。小さな教室に生徒がたくさんいて、校庭にでてくるとすごい人数でした。皆すごく元気でパワフルだった。また、教室の地面は砂だったり、一人一人に机はなく、長い机を2、3人で使って勉強していました。高学年の教室で日本について授業させてもらえたのは貴重な経験となった。また、土のう袋に絵を書く授業、割箸とボンドの工作の授業を見学させてもらって、ケニアの小学生の創造力に驚きました。

ケニアの首都のナイロビに移動し、サファリの後、マトマイニ・チルドレンズホームで4日間ボランティアをさせていただきました。ここでも子どもたちの元気さには圧倒されました。広大な有機農園でケニアと日本の野菜を栽培し、木を植えたり、鶏や牛やうさぎを飼っていたり、またスラム街に住んでいたお母さんたちがぬいぐるみを作る仕事をしていたり、孤児院だけではなく様々な取組をしていた。子どもを預かるだけでは意味がなく、その子どもたちのお母さんが自立しなければスラムは減らない、ということ話してくれました。孤児院にいる子どもたちの親の話、子どもたちの現状、ケニアの政治やお金の話、アフリカ最大のスラム街の見学、さらに菊本さんの自身の話など、菊本さんにいろいろ話していただいて、勉強になることがたくさんありました。

道直し、ホームステイ、小学校訪問、サファリ、孤児院それぞれで、実際に自分の目で見て、感じて、考えて、学ぶことがたくさんあった。日本の生活に比べるとケニアは不便なことが多く、大変だ。しかし食べ物、生き物、水の貴重さを感じながら自然と共に生活することがとても大事であると私自身感じた。ケニアで学んだことを今後どのように生かしていくか、そして何を必要としているのかを考えていきたいです。そして、またケニアの大地を踏みに行きたいです。



ケニアで撮った写真をいくつか紹介します。

←道直して土をしっかりと固めるために最後に水をかけます。その水を汲みに井戸へ。大量に水が入ったタンクを頭に載せて軽々と運びます。しかも楽しそうに喋りながら。びっくりするぐらい重いんです！私は首が折れそうになりました。（笑）ケニアの女性たちは逞しいです。

→土のうを並べ、それをコンパクターで叩きつけているところ。このコンパクター意外と重たくて、やっているうちにだんだん腕が上がらなくなってくる。でも、ケニアの人は本当に力持ちです。



←ホームステイ先です。私は手前の家で長女のノエルと一緒に寝ました。ご飯もここで食べました。鶏は出入り自由です。（笑）奥の家がパパとママと子どもたちの寝室があって、その隣が物置と台所がありました。



←ホームステイで、子どもたちに折り紙で風船と飛行機を作ったら、日が暮れるまで楽しそうにずっと遊んでいた。私も一緒に遊んでいたけど、子どもたちの体力についていけなかった。

→雨が急に降ってきて、家の中に撤退！おやつにスイートポテトとチャイをだしてくれた。右から長女のノエル（10歳）、次に長男のエルフアス（7歳）、ママのユニース、次男のノア（5歳）、そして私。この時、末っ子のブラムウェル（2歳）はお昼寝していました。



←ホームステイ期間中、一番おいしかった晩ご飯を紹介します。奥の白くて丸い食べ物はウガリ。その前の白い平べったい食べ物がチャパティ。手前が鶏肉とトマトを煮込んだもので、それにウガリやチャパティを浸けて食べます。これがすごくおいしかったです。



←小学校訪問。高学年のクラスで日本についての授業をしてほしいと先生に頼まれて、授業をすることに。日本の四季、食べ物、国旗、学校のことなどを教えました。私たちも生徒にケニアについての質問をして、楽しい授業だった。最後に生徒に国歌を歌ってもらいました。

→土のう袋に絵を描くクラスを見学。いろんなペンでカラフルに家、教会、学校、人、ボールなどを描いていて、見ていてとても楽しかった。大きく絵を描く子もいれば、小さく描く子もいたり、大雑把に描く子もいれば、細かく描く子もいて、その子その子の特徴が表れていたように思いました。



←工作の授業。外で割箸とボンドと紙を使って、家を作る子、車を作る子などさまざまだった。みんな楽しそうに作っていた。



←マトマイニ・チルドレンズホーム
で。休日だったので、子どもたちと
庭で遊んでいる様子。子どもたちは
日本の童謡や歌を知っていたので、
みんなで歌った。

→農園でサイモン（奥の男性）に教えてもらいな
がら、自分の木を植えさせてもらった。彼はこの
孤児院の卒業生で、今は大学生。木が好きで、木
や種の話をする止まらない。話が深すぎて、な
かなか理解できなかったけど、彼の木への熱意が
伝わってきた。植えた木の種類は忘れてしまっ
たが、マメ科の木でかなり大きくなるそう。立派
に育ってほしい。



←孤児院に滞在中、アフリカ最大のスラム街を
見学させてもらった。至る所にゴミの山があっ
て、悪臭がすごい。道はヌルヌルでガタガタ。
スラム街の中にも小学校があることや、たくさ
んの人が住んでいることに衝撃を受けました。
まだまだこのスラムは拡大しているそう。